

多久日本語教室

▶ 多久日本語教室のボランティアのみなさんと受講生



日本語で日本語を教えます！

今年4月に発足した「多久日本語教室」は、外国の方に日本語で日本語を教えるというスタイルが特徴。日本在住の外国の方が日本語をもっと知ることによって、生活を安定させたり、地域との交流を深めたりすることができるように手助けをしようと教室が立ち上がりました。

現在は、アフガニスタンの子どもたちが毎週土曜日10時から11時30分まで、南多久公民館で日本語を勉強しています。ボランティアの方々は「受講生が日本語で会話ができるようになったり、文法を理解できるようになったりしていくのが嬉しい」と話します。今後は大人の受講生にも来てもらい、息の長い活動にしていきたいとのこと。

日本語がわからなくて困っている外国の方をご存知のみなさん、この教室を紹介してみたいはいかがでしょうか。

☎ 多久日本語教室 ☎090-9605-2633

✉ jgykk555@yahoo.co.jp

ふ・れ・あ・い・ひ・ろ

●連載27● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

渾天儀

渾天儀は江戸時代の天文器具で、もともとは天体の位置を測定する器具です。日本国内には29基の渾天儀が現存していますが、ほとんどは観測用ではなく天空の模型として作られています。そのうちの 하나가 多久にあります。東原庫舎の備品として使われていた渾天儀です。

この渾天儀の箱には「天明八年八月改」とあり、1788年にはすでに作られていたことが分かります。しかし江戸の緯度にあわせて作られており、多久の緯度にはあっていません。あくまでも説明用の教材として使われていたのでしょう。



▲200年以上前の渾天儀（多久市郷土資料館蔵）

東原庫舎といえば儒学、というイメージが強いのですが、実際は天文学や医学など、幅広い学習が行われていました。東原庫舎で学んだ少年たちも、渾天儀から壮大な宇宙へ思いを寄せたことでしょう。

多久市郷土資料館・歴史民俗資料館・先覚者資料館

開館時間 / 9時～16時 入館料 / 無料

休館日 / 月曜日（月曜日が休日の場合は開館し翌火曜休館）

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

新緑の狭庭ながめつミシン踏む 川浪 信子

優雅な刻にするのも自分

心臓の病を抱えて二十年 福島那智子

鼻歌うたい八十路を歩く

ボタボタと梅の実落ちて主なき 梶原恵美子

屋敷の庭に初夏の風吹く

赤煉瓦夏日に映えて美しく 田淵ミチ子

豪商今も昔を伝う

麦秋の忙しき日々を高熱の 浦野 嘉恵

吾に付きくれし遠き日の母

俳句

《あざみ句会 互選》

子供らの 歓声乗せて 初夏の風 川内スミ子

初ぼたる 草の深さに 遊びけり 光野 正子

代掻きの 終わりに映ず 空の青 中嶋 清子

花菖蒲 見られ撮られて 疲れけり 武富りつ子

庭下駄の 音小刻みに 堂の夜 大石ひろ女

振り込める金があるからひっかかる 高塚チカ子

かくし芸こわれて唄うハトポッポ 松下 修

心の健康あなたの愛に支えられ 井上 東子

川柳

《多久市川柳会 互選》

バラ祭で少女に戻る母の声 猪ノ口昭子

たくましく育てて親は無一文 西山 残月

市民文芸



6月号掲載尾形節子さんの短歌に誤りがありましたので訂正してお詫び申し上げます。 誤：伊吹 → 正：息吹